

やすらぎ

2021.9
september
Vol.86



大間町大漁祈願祭

海上の安全と豊漁を願い、毎年、海の日に行われている大間町大漁祈願祭。地元の神社で祈祷したあと、大漁旗をはためかせた漁船は、波を砕きながら一斉に海へ繰り出す。その姿は勇壮で、色鮮やか。漁港では多くの町民が見守っている。

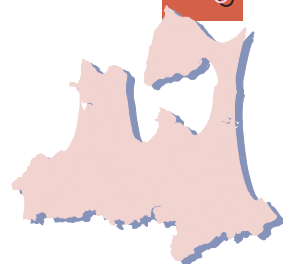
沖合では、お守りを海中に沈める神事「お札入れ」が厳かに行われ、心から安全を祈願する。大漁祈願祭は、大間町を代表する行事のひとつだ。

例年であれば、台湾の海の守護神「天妃様」が、神楽や神輿に先導され、魔除けの銅鑼や爆竹が鳴り響く中、町内を練り歩く「天妃様行列」が行われるが、コロナウィルス感染症予防のため中止となった。

来年こそ、何艘もの漁船が大漁旗を飾って沖を旋回する雄姿と共に、日本と台湾の文化を融合させた、異国情緒たっぷりの行列が見られることを願ってやまない。

夢は諦めなければ叶う！

野球を通じて魅力的な人間に育ってほしい。

元北海道日本ハムファイターズ投手
母校の八戸西高校で野球を指導するなかむら
中村 渉
さん（42歳）

みなさんは、五戸町に元プロ野球選手がいることをご存知だろうか。2004年のドラフト会議で、北海道日本ハムファイターズから指名を受けた中村渉さんだ。八戸西高校、三菱製紙八戸クラブから初めてのプロ野球選手となり、同期には、ダルビッシュ有投手がいる。

現在は、江戸時代から続く畳屋の8代目として働く傍ら、母校である八戸西高校野

球部のコーチとして活動。2020年秋、東北大会ベスト8、今年春の選抜高校野球大会では21世紀枠として、甲子園初出場へと導いた。

中村さんが野球を始めたのは、五戸小学校4年生。左投げピッチャー・ファーストとして「気づいたら野球を楽しんでいました」。

五戸中学校、八戸西高等学校へと進み、野球を続ける。

体が大きく左投げでもあることから、選ばれて青森大学経営学部経営学科へ。しかし大学3年生の時、コーチと考えが合わず退部。アメリカンフットボール部に転部してしま

卒業後は家業を継ぎながら、それでも大好きな硬式野球は続けたいと、社員以外も入れた社会人野球のクラブチーム・三菱製紙八戸クラブへ。ピッチャーとして先発で試合を重ねて行くなか「高校時代、プロに行けたらいいなあと思っていた夢が、プロになりたいという目標に変わった」と話す。

そして社会人野球3年目。三菱製紙八戸クラブは都市対抗野球の東北二次予選で秋田のTDKと対戦。この時のピッチングが評価され、2004年「JT」の補強選手として都市対抗野球大会へ出場、ベスト4進出。都市対抗野球準々決勝で、プロ野球の予備軍とも言える東芝を5安打完封し、いろんな球団から声をかけられ、2004年のドラフト会議で日本ハムへ。畳屋を辞めてプロ野球の世界に飛

び込むことに、寡黙なお父さんが背中を押してくれた。

2005年〜2007年まで「北海道日本ハムファイターズ」に在籍。しかし「入団してからは悔しい思いばかりでした。2軍で先発、でも満足できることは一つもなかった。ピッチャーとして満足のいくボールは、必ず次に繋がるんです。好きでやっていた野球がプロとして仕事になった時、自分には意識も技術も足りなかった。今思えば入団することが目標になっていたんです」。入団するだけでも大変なプロ野球の世界で、そこに身を置いた自らの素直な気持ちるを明かしてくれた。

退団後は、八戸市での会社員を経て、働くことの意味を考えながら、再び家業を継ぐ。そして八戸西高校野球部の監督に「部員を甲子園に連れて行きたい」と誘われ、コーチに就任した。

「八戸西高校は公立高校。甲子園に行こう！と言っても正直、指導者と部員たちの温度差はある。なんでもできないではなく、部員たちと同じ目線で、距離を縮めるような心がけました。センバツに行けた部員は何より心を開いてくれた。打てば響く子達でした」と高校野球におけるメン

タルの重要さを語る。

野球は「考えるスポーツ。普段の個々の人間性の発表会だと思っんです。一生懸命やっていたら、土壇場で本性が出る。子どもたちには、技術だけでなく、野球を通じて魅力ある人間になつて欲しいんです。挨拶ができ、感謝の気持ちを育むことができる、それを教えてくれるのが野球だと思います」。

プロ野球選手になったのは「諦めない継続力があつたから。どんな未来でも、夢を想い続け、目標を持ち続けることが一番大切なんです」。

爽やかで、堂々としているのに謙虚。自然に放つユニークなオーラは、輝きを手にした人の、すべてが凝縮されていた。



詩集『女はいつも小走りで』の中で 軽やかに淡々と人生の情景を描く

詩人 山口真喜さん（弘前市出身）

70歳を過ぎて、人生初の詩集を出版した山口真喜さん。その詩集は軽やかで明るく、ユーモアとペーソスが散りばめられている。表紙には、白い靴をはいた女性が青い空をバックに走って行く姿がある。この小走りの女性はもちろん山口さんだ。

走りという表現が軽やかで明るい。「人からよく、山口さんはいつも走り回っているイメージと言われます」というから、この軽やかな小走り感は山口さんの人生を象徴しているのだろう。子どものころから文章を書き、本を読むのが大好きという文学少女だったが、北里大学へ。なんと理系女子なのだ。同大学の病理学教室で学んだ。卒業後、神奈川県大和市立病院の病理検査に勤務し、解剖や標本を作る日々。解剖学では、自分の気持ちを畳みこむ訓練を受けたという。

「100体ほど解剖に携わりましたが、自分の感情に溺れたら、解剖などできません。常に客観的に視ることを学んだように思います」。

そんなことも理由にあるのだろう。第一詩集は淡々として冷静な視点が底にある。「裸になりきれなかったのか

も」と話す山口さんだが、一行一行に無駄がなく、過度の装飾や贅肉がない。

「自分の思いを書き過ぎず、あとは読み手の感性に任せた。自分の思いに浸り、感情に溺れないように気をつけた」というのは理系のクールさかもしれない。

介護保険制度の始まりに際し、これからは介護という仕事が大変な時代だと先を見据え、自らホームヘルパー、介護福祉士、ケアマネージャーの資格も取り、NPO法人の理事としても活躍。本当に軽やかに自らの人生を生きてきた。そしてそんな中で再会したのが、子どものころに好きだった「書くこと」だった。

エッセイ教室や詩の会に所属し、文章や詩を書きためていった。そして文学仲間や指導してくれる師に背中を押され、第一詩集出版となった。

23編の中には小さな物語のよ

うな詩もある。母が娘につぶやく。

「白い木槿は底紅って言うのよ、知っていた？ あんなにいっぱい咲くとうるさいね。切つてしまおうか。そう言つて微かに笑った」。

母の中にある女性が木槿の花の底紅と重なり、不思議な怖さを内包している。

18歳でふるさとを離れ、東京の大学に入つて以来、故郷青森とは水の流れるように繋がっている。と表現する山口さん。自らの源流は故郷にある。詩集の中にも、母に髪をきりと三つ編みに結い込んでもらう少女の山口さんや大好きだった祖母たちの姿も現れる。第一詩集は山口さんのこれまでの人生の一区切り、集大成のような存在かもしれない。

「次はエッセイ集を出したい、第二詩集も出したいと夢がふくらみます。これからの人生を楽しく過ごせるいいものに出会えた」と明るい表情で語る山口さん。次の詩集やエッセイ集を楽しみに待ちたい。



ホッとタイム

「茄子の紫
蘇巻きとニシンの飯寿司が食べたいく」が私の第一声でした。津軽に伝わる懐かしい料理を地域の先達から聴き取り、再現し、提供する活動を続けてきた「津軽あかつきの会」の工藤良子さんから届いた本『津軽伝承料理』。頁を開くと、四季折々、津軽のバッチャたちの知恵が詰まった料理の数々がレシピと共に飛び出しました。

工藤さんとは20数年前に取材を通して出会い、東京で津軽料理を食べる会などの活動を一緒にさせてもらったり、藤崎町の旧家のお座敷で「嫁取り料理」を再現していただいたことも。素晴らしい本が完成して、私もうれしい。コロナ禍が収まったら、また「津軽あかつきの会」の皆さんが作る伝承料理を食べにいくのを、楽しみにしています。

（清水典子）





ひばり野公園



街角インタビュー



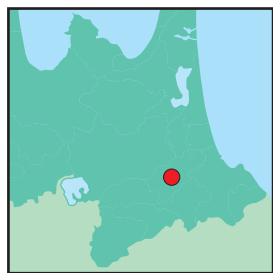
ごのへ郷土館



歴史みらいパーク



小渡平公園



[五戸町]

市町村めぐり

八戸市や十和田市に隣接し、奥州街道が町を貫く五戸町は、面積約177平方キロメートル、人口約16500人。古くから馬産地として知られる、坂の多い町だ。広大な敷地の「ひばり野公園」には、陸上競技場、野球場、人工芝のサッカー場、五戸ドームほか、長さ72mのローラーすべり台があり、遊んだり、散策したり、自然観察も楽しめる。毎年夏には、至近距離で見上げるような花火大会が人気の「このへ夏祭り」会場として賑わっている。

※今年はコロナウイルス感染症の影響で夏祭りは中止でした



五戸まきば温泉

天然芝が敷き詰められた小渡平公園は桜が美しく、日本グラウンド・ゴルフ協会の認定コース。五戸みらいパークには、近代的な図書館や五戸代官所があり、閉校した小学校の校舎を活用した、このへ郷土館は、町の民俗や産業、文化を振り返る資料がいっぱいだ。そしてもうひとつ、坂の多い町の「まちあるき」も魅力的。造り酒屋、煎餅店、駄菓子を作る和洋菓子店、米穀店、屯所、国指定重要文化財の住宅など、いろんなお店や歴史の名残りが、訪れた人を優しく迎えてくれる。散策のあとは、五戸まきば温泉で、のんびり疲れを癒したい。

菊駒酒造

三浦 弘文さん



創業明治43年の造り酒屋です。五戸の風土、軟水の井戸水（八甲田山の伏流水）、青森県産米を使って、定番の純米酒から旨味の強い秋の限定酒まで『地元を愛されてこそ銘酒』と思って酒を醸しています。飲み続けても飽きがかない無心な酒は、シャモロックや倉石牛、馬肉、キクラゲなど、地元の食材にぴったり。コロナが落ち着いたら蔵見学も再開する予定です。ぜひ五戸に遊びに来てください！

五戸町スポーツ交流センターから亭

鳥谷部 恵美子さん



五戸町の中心商店街で33年営業し、この春、スポーツ交流センター内に移転しました。メニューは、麺類からご飯ものまで100種類。野菜たっぷりの日替わりランチプレートはいかがですか？とろみスープの「うまからうめん」はオープン当初からの人気メニューです。広い小上がりやキッズスペースもあるので、子どもから年配の方までくつろげます。五戸町は坂の多い、趣のある街です。

特集

おらばん

■撮影地／津鼻崎
■お問い合わせ／大間町役場
■TEL／0175-37-2111

津鼻崎

大間町の赤石海岸から佐井方面に向かうと「材木岩」と呼ばれている柱のような岩肌の海岸線が続きます。大間町と佐井村の境となるのが津鼻崎。下北ジオパークのひとつです。材木防災公園入口から散策することができ、ニッコウキスゲの群生地でもあります。



大間牛

大間で水揚げされる本マグロの大トロにも負けない最高等級のA5に評価される肉質も出ることから、地元では「陸マグロ」とも呼ばれています。津軽海峡から吹き付ける強い潮風を浴びたミネラル分たっぷりの牧草が美味しさの秘密。西吹付山のふもとにある大間牧場で飼育されています。



大間マグロ

津軽海峡で水揚げされるマグロは、天然の本マグロです。特に大間町で水揚げされたマグロは最高級品で、「大間マグロ」というブランドネームで、全国に知れ渡っています。大間のマグロ漁は、例年8月から1月くらいまで。水温が低くなる秋から冬にかけて獲れるマグロは大型のものが多く、上質な脂がのっています。大間町に面する津軽海峡は、黒潮、対馬海流、千島海流の3つの海流が流れ込み、良質なプランクトンが溜まる地形。そこに集まるサンマやイカなどを追いかけてマグロもやって来ます。日中は一本釣り漁、夜間は延縄漁。マグロに傷を付けないよう一本一本を大切に水揚げし、魚が弱ってしまう前に血抜き生剥き作業を施す、資源保護につながる漁法です。



おおま宿坊 普賢院

平成30年、大間町の山奥に、新たな宿坊が開山しました。3,000坪の敷地には、つつじ、山桜、しゃくなげ、睡蓮、彼岸花、山野草などが四季折々に咲き誇り、禅寺ならではの趣ある雰囲気心が落ち着かせてくれます。宿坊での宿泊は、1日ひと組限定。大間マグロなど地元の食材を使った精進料理をいただき、坐禅・写経・御朱印帳作りなど、禅体験もできます。ライダー専用のゲストハウスも用意されています。

全国初! お寺の住職による 手作りワイン&クラフトビール

えっ? お寺でワインと地ビール!? 大間町奥戸地区にある梅香山崇徳寺では、寺の名前に由来するワインとクラフトビールを醸造しています。その名も「ハイコードリンクB・S」。
ワイン「silent snow」は、こだわりの果汁を厳選輸入し、自社園場の山ぶどうをブレンド。フルーティーでフレッシュ、芳醇な香りが楽しめます。ビール「麦雫」は、ラガー、ピルスナーなど5種類を醸造しています。



マグロだけじゃない！

大間町には、美味しいものがいっぱい！！

本州最北端の大間町。これから旬を迎える本マグロは

もちろん絶品だけど、それだけじゃないんです。

今回は、大間の美味しいものを、美しい風景や人物と

共にご紹介いたします。

オコッペいもっこ

大間町の奥戸地区では、全国的に希少となった馬鈴薯品種「三円薯」を栽培しています。明治38年にアメリカから青森県にもたらされた品種で、煮えやすく、ほどよく粉をふくと好評です。バターを塗ったり、塩辛をかけたり、ふかして食べるのが最高に美味しいジャガイモです。



おこっぺもじゅく

大間町の奥戸地区で採れるもずくは、毎年6月～7月に収穫される天然の初採れ「草もずく」です。気温や水温が低い朝のうちに短時間で収穫するんですよ。その特徴は、細くてシャキシャキ、つるつるな優しい喉越しなんです。「おこっぺもじゅく」は冷凍された商品ですが、解凍後もそのシャキシャキ感は健在。酢の物はもちろんのこと、天ぷらや味噌汁の具材にもぴったりです！



うに

本州最北端の大間町では、3月初旬からウニ漁が解禁になります。大間町で一般的に食べられているウニは「キタムラサキウニ」(地元では「ノナ」と呼ばれています)。大間産のウニは完全無添加で、濃厚な甘みと磯の香り、とろけるような滑らかな食感が特徴です。



べこもち

大間町奥戸地区の主婦が考案した「べこもち」は、色鮮やか。花びらや葉っぱの細やかな模様など絵柄が豊富で、とってもキレイです。現在は、新しい模様作りや生地に天然色素を使うなど、素材にこだわっています。平成16年には食の文化伝承財として青森県知事賞を受賞しました。



大間って最高！

大間観光土産センター 勝川 明樹さん
営業統括マネージャー



静岡県出身で、神奈川県川崎市から大間に移り住んで6年目。大間観光土産センターで、新商品を開発したり、営業から販売まで行っています。本州最北端の大間町は、自然が豊かで空気も食べ物も美味しいですよ。ここに来て「うに」がこんなに美味しいことを、初めて知りました。「もずく」もシャキシャキしているんです。マグロもニユメントがある本州最北端は、波が穏やかな日は、海がとってもきれいです。海が荒れた日は風速20キロメートルにもなるんですが、それはそれでおもしろい。ここに辿り着くまで、遠いからこそ達成感や最果て感を味わってみてください。大間町は、満員電車で通勤していた頃は比べられないほど、ゆったりとした時間が流れています。そして、どんなにあったかい日でも上着を羽織って、美しい漁村の風景を眺めに、ここならではの美味しいものを食べに、大間町に来てください！お待ちしております。

健康

82

かぜとインフルエンザと
新型コロナウイルス感染症

かぜは、正式名称を「風邪症候群」といい、鼻やのど（上気道）の急性炎症の総称です。

かぜのほとんどの原因はウイルスの感染。かぜのウイルスが鼻やのどの粘膜に付着して感染すると、鼻やのどの奥で炎症を起します。すると、発熱したり、炎症でのがが痛くなったり、鼻では鼻水やくしゃみを出してウイルスを追い出そうとします。それでも残ったウイルスが、のどの奥に侵入すると、今度はせきを出してウイルスを追い出そうとするのです。こうしたかぜの症状はウイルスの種類によってさまざまです。春と秋に「鼻かぜ」が多く、夏に「のどかぜ」が多いのは、時季によって流行しやすいウイルスが違うからだそう。



かぜのウイルスの数は200種類以上といわれており、どのウイルスが原因で起こったのかを特定することは困難です。また、同じウイルスでもいくつもの型があり、それが年々変異します。だから、一度感染したウイルスに対抗する免疫ができたとしても、次々に新しいウイルスに感染するため、繰り返しかぜをひいてしまうのです。

かぜは季節を問わずかかります。かぜをひいた人が、ウイルスのついた手で物に触れると、そこにウイルスが付着し、別の人がその場所に接触してウイルスに感染するのです。また、空気中に飛んだウイルスから飛沫感染する場合もあります。

これに対してインフルエンザは、インフルエンザウイルスに感染することで発症し、飛沫感染で広がります。感染している人が近くにいると空气中にウイルスがまかれ、それを吸い込んだ人が感染していくのです。

症状は、38℃以上の急激な発熱があり、関節痛や筋肉痛、倦

怠感や悪寒などの全身症状が現れ、鼻水、せきなどの症状を伴います。

かぜの場合は比較的ゆっくりと症状が出て、4～5日程度で改善することが多いのに対し、インフルエンザは急激に症状が現れ1週間程度の経過で回復していくことが多いようです。

新型コロナウイルス感染症は、2019年末に初めて感染が確認された新しいウイルス感染症です。

ひきはじめの症状は、個人差もありますが、かぜのように最初はゆるやかで、微熱から高熱、せき、関節痛、筋肉痛、倦怠感、食欲不振、味覚や嗅覚の異常を感じる症状が続いた後、急に重症化して肺炎を併発することもあります。

肺炎になった人の何割かは、集中治療や人工呼吸器が必要になります。軽症なら約1週間で回復しますが、一方で無症状の人が急激に重症化することもある



るので注意が必要です。

かぜ、インフルエンザ、新型コロナウイルス感染症に共通しているのは、接触や飛沫を介した感染症であるということ。せきやくしゃみで、ウイルスや細菌など原因物質を含む飛沫を飛び散らしたり、飛沫のついた手で触ったりすることで、感染を広げてしまいます。

感染経路には飛沫感染や接触感染のほか新型コロナウイルス「エアロゾル」による感染の可能性があります。

飛沫感染は、くしゃみやせきなどによる飛沫と一緒にウイルスが放出され、近くににいる人がそれを口や鼻から吸い込み、粘膜からウイルスが体内に入ることと起こります。だからマスクを着用することで、飛沫の広がりを抑えられるのです。

接触感染は、ウイルスが付着した手で鼻や口に触れ、粘膜か



らウイルスが体内に入ることと起こります。手洗いで付着したウイルスを洗い流す、アルコールによる手指消毒でウイルスの感染力を失わせることができます。



エアロゾルは、空气中に漂う微小な液体や固体のこと。換気の悪い室内などで感染者がくしゃみやせきをするなどして発生する場合があります。エアロゾルを鼻や口から吸い、粘膜からウイルスが体内に入ることとエアロゾル感染が起こります。換気の悪い室内などで多く起こるので、こまめな換気を中心がけましょう。空気の流れを作ることが大切なので、2方向の窓や出入り口を開けましょう。

予防には、どの感染症も、マスク、うがい、手洗いなどで原因物質を寄せつけないようにする、不要不急の外出を避けて「3密」をつくらないようにすることが重要です。

流行が収束したとしても、ウイルス自体が消滅したわけではありません。感染症にからまない、広めない生活を続けることが大切です。

あいちゃんの読んで得だね!

今回「やすらぎ」の取材で訪れた大間町と五戸町。2つの街の、とっておき情報をお届けします。

「大間マグロと陸マグロ(大間牛)の食べ比べ」が美味!

《大間町》

本州最北端の大間といえば、やっぱりマグロ。マグロ丼やマグロのお刺身定食はもちろん美味しいですが、おおま温泉海峡保養センターでは「大間マグロ・陸マグロ(大間牛)食べ比べ定食」を提供しているんです。

「陸マグロ」は、大間町で肥育されている黒毛和種「大間牛」のこと。その肉質は大間で水揚げされる本マグロの大トロにも負けない、最高等級A5に評価される肉質も出ることから、地元では「陸マグロ」とも呼ばれています。

おおま温泉海峡保養センターでは、事前に予約をすれば食べ比べ定食が味わえるほか、レストランでは「陸マグロ(大間牛)すき焼き定食」も用意しています。

おおま温泉でしか味わうことのできない美味しい「陸マグロ」と「大間マグロ」を堪能し、大間のマグロ漁師

がこよなく愛する塩の湯つこで、日頃の疲れを癒してみませんか。



■お問い合わせ／おおま温泉海峡保養センター
下北郡大間町大字大間字内山48-1 TEL 0175-37-4334

五戸町でメキシコ料理!?

《五戸町》

五戸町で見つけたメキシコ料理店「VIVA LA VIDA ビバラビダ」。スペイン語で「人生最高」とか「人生バンザイ」という意味だそう。

築70年の古民家を改装した店内はラテンな雰囲気。メキシコ人のお義母さんから直接受け継いだ、本場の家庭料理が味わえます。

ランチタイムは「タコススペシャル」や、珍しいスープタコス「ソピトス」をぜひ! 「タコス」とは、肉や野菜などの具を、とうもろこしの粉で作った「トルティーヤ」に乗せて食べるファストフード。ここでは、オーダーが入ってからトルティーヤを焼くから、時間はかかるけど、本場の味が楽しめるんです。

やさしい味のタコスに、トマトで作った「サルサ」や、アボカドで作る「ワカモレ」のソースをつけて味わって! 彩り豊かな食材は、目も楽しませてくれます。

夜はテキーラソムリエの資格を持つ店主が、素敵なカクテルを作ってくれますよ。メキシコの楽器などが並ぶ店内で、ゆったりした時間を過ごしてみませんか。



■お問い合わせ／メキシコ料理店 VIVA LA VIDA ビバラビダ
三戸郡五戸町下タノ沢7-7 TEL 0178-79-7604

《五戸町》

♥坂のまち五戸には、いろんなお店が点在していました。最初に訪れたのは菓子工房三福。昔ながらの「五戸駄菓子」から、五戸をイメージした和菓子、新作スイーツは、町の子どもたちにネーミングしてもらったんだって！



♥続いておじゃましたのは、山部米穀店。店内には、特別栽培米、古代米、黒豆、ひえ、アマランサスなど、体にやさしい雑穀類から、そば粉、エゴマ油なども販売されていました。



♥五戸町には、造り酒屋が2つありました。今回訪ねた菊駒酒造は100年以上の歴史があるところ。散策途中にいただいた井戸水は、冷たくてほんとに美味しかったです。



♥菓子処さがわは、フルーツタルトが美味しいお店。焼き菓子や生どら焼きもGOODでした。



♥江戸時代、幕府直下の牧場があった五戸町。今も酪農や畜産を手がける農家が、良質なものを生産しています。数々の賞を受賞したブランド牛「倉石

牛」、市場から高い評価を受けている「シャモロック」、そして町の特産品として長く親しまれている「馬肉」。これらは「ごのへ三大肉」と呼ばれ、町内の飲食店で気軽に食べられるそうですよ！



♥五戸町のキャラクター「五戸のおんこちゃん」。おんこ（イチイ）の木は、五戸町の木で、おんこちゃん、その木の精、のようなもの。おいしいものがあるところに現れ、おんこちゃんをみかけた人には幸せが訪れるといわれています。つくったのは五戸町出身の姉妹クリエイター「東京ハイジ」。人気のアニメーションは「はみがきのうた」です。YouTubeには町民が参加して作った「五戸のおんこちゃん」の動画があるから、ぜひみてみて！ほっこりした気分になれますよ。そしてまた五戸町に行きたくなっちゃいます。



©東京ハイジ／五戸町

あいちゃんのほのぼのコーナー

— マグロづくし! の巻 —

♡ 取材こぼれ話



《大間町》

♡大間町のイメージキャラクター「かもめ〜る」。町の鳥「かもめ」をモチーフに、頭には日本の灯台50選に選ばれた大間埼灯台、お腹には名産の大間マグロをチャンピオンベルトがわりにつけて、大間町をPRしています。どこかで見かけたら声をかけてね。



♡本州最北端・大間崎の向かいにある大間観光土産センター。ここには大間産本マグロからユニークなグッズまでいろいろ。「マグロの塩辛」は、マグロの胃袋を塩で長期熟成発酵させた一品。臭みがなく、うまみ成分たっぷり。温かいご飯のお供に、冷奴にかけて、酒のつまみにもぴったりです。



ユニークなオリジナルマグログッズとしては、かゆいところに尾が届く「まぐの手」、「大間産本マグロ〜ただ今出荷準備中〜」は、とってもリアル。

大間の漁師グッズも人気だそうです。



♡ランチタイムは、おおま温泉海峡保養センターで「大間マグロ・陸マグロ（大間牛）食べ比べ定食」や「鶏唐揚げおろしポン酢定食」をいただきました。美味しかった〜!



♡他にも「大間つるっつるあらめラーメン」がおすすめ。津軽海峡の荒波にもまれた「つるあらめ昆布の粉末」を麺に練り込み、つるっとした喉越し、食感の良い細切りちぢれ麺が特徴。磯の香りの塩味にお醤油のエキスを調えたラーメンです。



くみあい 情報板

令和2年度一般会計決算概要

歳入 (千円)	負担金	9,749,629
	財産収入	105,707
	繰越金	1,243
	諸収入	10,419
	計	9,866,998

歳出 (千円)	議会費	192
	総務費	59,847
	給付費	6,780,352
	諸支出金	3,579
	計	6,843,970

歳入歳出差引額 3,023,028千円 うち支払準備基金繰入額 3,020,000千円 翌年度繰越額 3,028千円

《退職事由別給付状況》

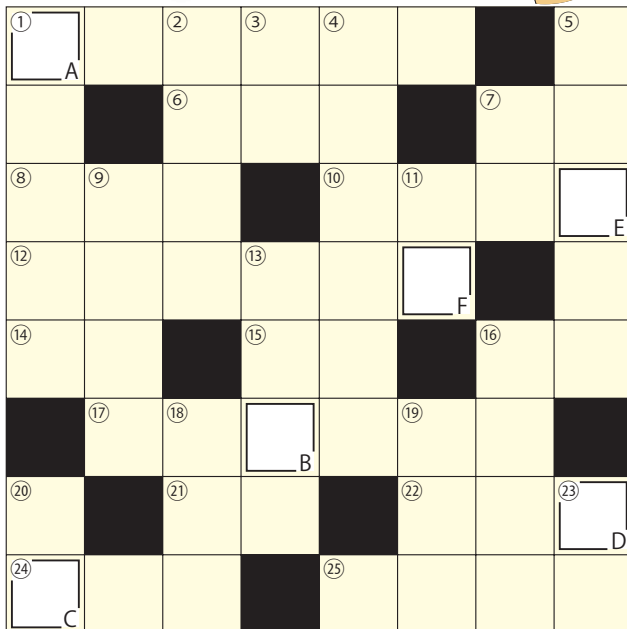
退職事由	人員(人)	金額(千円)
普通退職	282	465,810
長期勤続退職	24	255,004
定年、応募認定退職	285	5,797,831
特別職の退職	36	261,707
計	627	6,780,352

組合ホームページをご利用ください

<https://aomori-taite.jp>

(主な内容/概要・例規集・様式・事務の手引・試算・構成団体決算状況・リンク集・お知らせ)

あいちのクロスワードパズル



□の中の文字を並べると、ある言葉ができます。

(ヒントは「やすらぎ」の中にあります。)

はがきにクロスワードの答えと、郵便番号、住所、氏名、年齢、電話番号、所属市町村名、「やすらぎ」へのご意見、ご感想、メッセージを添えて、〒030-0812 青森市堤町2丁目1-1青森県市町村職員退職手当組合「やすらぎ」編集室までお送り下さい。正解者10名様に抽選で素敵なプレゼントを差し上げます。

締切/2021年10月末日消印有効

《タテのカギ》

1.様々な状態や動きを音で表現した言葉 2.腰につけるネプタ衣裳 3.NHKのバラエティ番組「○○ちゃんに叱られる」 4.いろんな分野に関する政策を立案、提言する研究機関 5.下北半島北東端にある岬 7.『香具師』、お祭りや緑日の露店で商売をする人 9.複数の人たちの集まり 11.「○○を天にまかせる」 13.屁(悪臭)を放つ動物 16.『氷下魚』(こまい)を干したお酒のつまみ 18.ラテン語で乳を意味する言葉「○○○アイス」 19.「となりの○○○」(宮崎駿監督のアニメ) 20.「○○○の勢い」(途中で止められない) 23.○○水、○○鉄、○○室

《ヨコのカギ》

1.古きを訪ね新しきを知る(四字熟語) 6.春の選抜甲子園、優勝チームに贈られる「○○○の優勝旗」 7.突き刺すことを主目的とした武器 8.地下深部に存在する溶岩 10.お客さんの乗っていないタクシー 12.中央アジア全般をさす地名 14.落語家でタレントの「林家○○」 15.『第六○○』(ひらめき、直感) 16.海のミルク 17.水中や水面で生活する浮遊生物 21.1×1から9×9までの掛算表 22.北海道東部にひろがる「○○○平野」 24.商品の生産に必要な費用 25.ロシアの3頭立て馬車

前回パズルの当選者

厳正な抽選の結果、次の10名様が当選しました。おめでとうございます。
(応募数84名)

〈前回パズルの解答〉

日本一の自由の女神像

〈所属市町村名・氏名〉

五所川原市	齋藤綾子	大鰐町	外崎正嗣
五所川原市	増田恵子	六戸町	横山祥人
三沢市	宇津木沢唯	一部事務組合下北広域センター	佐藤昂
つがる市	佐藤公俊	一部事務組合下北広域センター	大場淑子
藤崎町	川田寛実	北部上北広域事務組合	洞内りのり子